

★★★
石井賞受賞

Uターンして、福山の霧に遭遇って

杉原 寛(広島)

はじめに

このたびは石井賞に選出していただき、誠にありがとうございます。私は三十数年間の会社勤めを卒業し、2012年秋に郷里である福山にUターンしました。それまでの仕事とは全く関係ないことに挑戦してみようと気象予報士試験の勉強を始めたのですが、同時期に福山の霧と出会い、資格取得3年の区切りとして応募した研究発表でこのような受賞に辿り着くとは、全く想像もしていませんでした。

福山の霧との出会い

2012年12月に、福山の中心部で濃い霧に遭遇しました。瀬戸内海沿岸部に位置する福山に霧のイメージはあまりなかったので、その時は福山でも霧が発生することがあるのか、という程度にしか思いませんでした。街中の霧が晴れた後も、福山を流れる一級河川芦田川の上には霧が残っているように見えたため、何度もかの霧の朝に、山の中腹まで出かけて観察してみました。すると、霧は主に芦田川の流れに沿って分布し、福山中心部の北に位置する神辺方面まで続いていることが分かりました。ひょっとすると神辺平野（周囲を200～300mの山に囲まれた盆地状地形）で発生した霧が、芦田川沿いに流れ込んでいるのかもしれないと考え、それ以来観察を続けています。

中国地方の霧については、広島県三次盆地や岡山県津山盆地などの先行研究が多数ありますが、福山付近は山陽自動車道IC間の霧発生日数としての研究があるのみで、このことも観察を続ける動機付けになりました。

観察方法は、自宅（福山駅の南東約2km）から目視と写真撮影を基本とし、大規模な霧が発生している場合には、山の中腹や高台から俯瞰的な観察を行ってきました。といつても5年半で20事例程度であり、2016年12月を最後にこの1年半はなぜか一度も観察できていません。

霧の発生や分布状況は毎回異なるため、十分な実態把握には至っていませんが、神辺平野で発生した放射霧が芦田川沿いや福山中心部に流れ込んでいることはほぼ間違いないと考えており、さらに事例を収集し現象に関する理解を深めたいと思っています。

さまざまな人たちとの出会い

2014年秋、運よく気象予報士試験に合格しました。霧の事例が少しまとまつた2016年頃からは、所属する広島県支部や中四国ブロック例会で話題提供させていただきました。また、（私は42期ですが）よんまる会の第3回新人気象予報士発表会でも発表する機会をいただきました。自分としては初の他流試合に臨む気持ちでしたが、ベテラン気象予報士の方々から有益なアドバイスをいただき、励みになったことを覚えています。さらに、よんまる会が「愛媛の気象」とこと

ん味わい隊」を企画していたので参加し、2日目は本隊とは別行動で、川を流れ下る霧として有名な肱川あらしの現地を（シーズン前でしたが）見学に行きました。当初一人で行く予定が、四国支部長の一さんが親切にも案内してくださいました。肱川あらしを発生させる地理・地形を実際に見たことで、福山との類似点、相違点を理解することができました。川内川あらしのことをforumで知ったのもこの頃かと思います。

他にもパソコン活用研究会など、振り返ると、直接間接に多くの方々のおかげでいまに至っていることを改めて感じています。

おわりに

最初のテーマとして福山の霧に遭遇したことは幸運だと思いますが、根本には地域の気象をよりよく理解したいということがあります。定点で長期間にわたって観察を行うことができるのは、その土地に住む人のメリットですので、今後もそのような視点から精進したいと考えています。

最後になりますが、石井賞の名称になっている石井顧問のご著書「平安の気象予報士 紫式部」（講談社、2002年刊）を10年以上前に購入して読んでいたことに、不思議な縁を感じました。社員総会後の懇親会で早速サインをいただいたことは言うまでもありません。

参考文献

杉原寛, 2018: 福山の霧～神辺平野で発生し、福山中心部に移流する放射霧～. 第10回日本気象予報士会研究成果発表会講演予稿集.



図1 福山中心部を覆う霧。2014年11月27日の事例。
最も高いビルがJR福山駅付近。上が神辺方面。



図2 福山周辺の地理・地形。カシミール3D + スーパー地形セットで作成。
矢印は霧の流れイメージ。曲線は芦田川に沿った流れ。